

刊夕日八月八



定価一冊五銭... 行金五拾銭... 日曜日の翌日休刊... 昭和十一年八月八日



盆踊考

【一】

生

▼序に代へて
曇に本紙々上に於て「盆踊と盆唄」と題し白土五郎氏の雄勁なる筆を以て、宗教的觀念より觀たる該盆盃會に關する所論を、發表せられたることは、民族の傳道的風俗及び其習俗に關心を持つ者をして欣喜に價する近來の快事であつた。顧みるに一度この行事の根源が、我々の遠祖の生活に如何なる交渉を経て來たるかを考へ見るも、今に於て必ずしも意義なき無用の業とは否定し得られぬであらう。

【朝】味噌汁：里芋 小付
らつさよう

【晝】鯉なまり さうりもみ

【晚】酢の物 うす打ちこ
んにやく 栗南瓜作
り身 酢味噌皿：ビ
ーフテーキ 付合
生トマト 南瓜

右は「盆踊を語る座談會」一節であるが、盆踊起源の詮索はこの程度で、權威者の座談會としては頗る徹底を見ぬものであつて、龍頭蛇尾の感を抱くに至つた。

江柴 さうすると故人の靈を慰さめる爲にやつたと云ふことが起原だと云ふことも云へる譯ですわ。小寺 いや、慰めると云つてはいけない、佛教渡來より以前に盆踊りはあつたのですから……印收、佛教の渡來と共に盆踊りが出來たと云ふことしてしまつたらどうですか。加來 歴史が存在するからさう云ふ譯には行かない、佛教が獨占する理由は決しない。(以下略)

これに越した幸福はない。
△文献に現れた最古の記録

古事記 上卷、天之御岩屋(一)の條に、

(略)天受賣命、手次紫天香山之日影而、爲露天之眞折而、手草結天香山之小竹葉而、於天之石屋戸伏汗氣而、踏登舒占許志、爲神懸而、掛出胸乳裳緒忍垂於番登也(略)とあり、天之細女命の天の岩戸の前に於ける新作は即「神懸」の宗教的意味が多

木村病院

平町新川町十九
電話一六四番

分に含まれて居るにしても汗氣(筆者曰ク空筒ノコト)上に立ち足にて踏登舒呂志胸乳を掻き出し、裳緒を番登(曰ク、御陰ノ同語ニテ男女隠所ノ意)に押し垂れし様は、既に其領域を越え明確に踊りの部分に踏み込んど居るのではないだらうか! 之が我國最古の踊りと見るべきであつて、其れを確定すべき憑證は無いとしても、記、紀の神代の卷を見るに、跳をラドリと訓ませ、「萬葉集」に始めて舞踊をラドリと訓ませ居る(註一)

弊院儀今般都合により元平郵便局裏三丁目裏川岸通りに移轉候從前通り診療に從事仕り候間右謹告仕り候
七月二十五日
田町五番地
明雲堂眼科醫院
新妻幸之助
電六六九

御禮

生ビール發賣以來連夜豫定の樽數を賣盡し有難う存じます。
就では御禮として毎土曜日を「黒ビールデー」として御奉仕いたします。

平會館
電話六二四

是非!

御融通には御用命下さい
萬事便利な御相談に應じます

公債、債券 三井質店
買物一般 平・四 電六〇六番

御位牌と品よい
佛壇佛具 安い
平・新川町 橋本屋
電一六三

一齒科一般 保存科補綴科 繼續架
工科 齒列矯治 小兒齒科 齒槽膿漏科
一口腔外科 レントゲン科
中野齒科醫院
平町田町(松月堂向と)
電話五〇九番

院長 日本齒科 中野 惠次
日本齒科 醫學士 西川 誠

喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお奨め致します
平町田町六九
喜多流 仕舞 白土會
入會隨時 電話一二七番

外科

門線科光 上田外科醫院
平町南町 電話一二九番

吉田眼科醫院

平紺屋町 電話六八番
醫學士 吉田久雄

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
平町田町 電話五二三番
内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科

忍び寄る秋

けふきく・立秋の聲

今日は立秋——風の音に
をどろいた昔の歌人でな
くとも、きのふ七日の夕
立後の涼しさですつかり
秋の来たことが忙しい人
々にも知れた、このま
で涼しい秋になればいい
が八日の立秋は秋とはい
ひこれはホンの歴の上の
秋で、驟雨来に暑氣一掃

夏の味——二十年來の 西瓜の甘さ

店頭に並ぶ丸い頭
中旬頃が最低安値

眞夏の食卓を飾つて水々し
い味覺をそとる西瓜もやう
やく出荷期に入つて店頭
丸い頭を並べてゐるが本年
は絶好の天候に恵まれて成
熟よく甘味の豊富なことは
廿年來稀れに見る處で市價
は目下出廻り期のため一般
に高價で一貫目十五錢より
廿錢まであるが出荷の多
さに伴ひずつと値段は落ち
て本月中旬の最成期には相
當安値になるであらうと

各分團の 對抗野球

平青年團體部主催各分團
對抗軟式野球大會は来る九
月六日午前八時から警庁

動産が長年に亘つて固定し
勝ちで擔保價値の變動消長
等に因る不慮の禍根となる
のに鑑み創められたもので
貸方も借り方も共に有利
な一石一鳥の名案と云はれ
てゐる

職業紹介業績 平職
紹介所の七月中業績は求人
四十七名(男三三、女一四)
求職六十六名(男五七、女
二一)で就職者は男二十六
名、女一九名の計四十五名
前月との比較は求職に於て
二十一名の増加を見らるる
が求人申込は増減なく、又
前年同期対比は求人一六、
求職六の増れも増加で成績
は良好の方である

中等庭球出場 過般

の縣下大會に惜敗した警中
平商兩庭球部は来る二十
日から二日間東北學院主催

植田野球大會 既報
植田スポーツ協會主催の第
四回軟式野球大會は明九日午
前九時から同小學校球場に
開催されるが出場チームは
オール植田軍を始め九チ
ムで第一回戦の組合せは左
の如く決定された

婚禮の調度品 貸貸で引請る

夏井村の信用組合が
經濟更生の一助にと

既報經濟更生指定村に編入
された夏井村は濱通り最初
の婚禮調度品の全廢を實施
することに決定したが同村
信用組合が二千餘圓を投じ
婚禮調度品を揃へ全村の婚
禮を貸貸で引受けるといふ
縣下でも珍しい結束振りを
見せてゐる

平第一日歸り 臨海學校通信 (四)

朝は六時といふと停車場へ
て来る各班長が人員を調べ
て先生の所に報告する。そ
れから先生が出席をつけ
る、そのうちに生徒のうし
ろにはあまこの大がた貸切
及中バスがあらわれならん
でゐる。出席簿をつける
「では、第一班から自動車に
乗りなさい」といふと生徒
は元氣よく自動車に乗込ん
だ。約二十分新舞子に到
着する。自動車が止るとみ
んなは我先にと降りる。先
生は「そんなにせかなくと
もいふよ」と言ふとやつと
ゆつくり降りるやうになる
やがて荷物を臺の上におい
て体操の支度になる。そし
てラヂオ体操をやる。体操
かをわると先生が「牛乳を
のみなさい」と言ふと第一
ばんから一列にならんで順
々にのむ。それからおさら
ひをすまして集合すると、
「もうシャツやパンツをお
とした人があるぞ」と先生
にいわれる。そんなことを
一々言はれておこられて
居る人が居る。
それから舟に乗つて向ふ岸
へ行つて水泳をする。
やがてお晝になると又舟に
乗つて歸つて来てご飯を食
べる。ご飯を食ふのにと
も長い人が居るので先生は
「もういんでないか」な
どと言はれて居る人も居る
晝休をした後松林の中にあ
るてントの下で晝ねをする
のになか／＼ねない人があ
る。晝ねをすましておやつ
をもらふ。それから又水泳
をすましてかへる。
そして先生が来るまで遊ん

てゐる。やがて自動車に乗
つて歸る。そして驛前にて
解散する。

利息割戻 特典付貸保擔産動不付典特

- 今回低利新ナ不動産擔保貸付
 - 詳細ハ最寄本支店デ御尋ネ下サ
 - 當行ハ至ル處郵便地ニ營業店ガ
 - アリマスカラ手数料費用ガ少ク
 - 且ツ敏速ニ御利用ガ出来マス
- 株式常陽銀行
- 右ノ外
 - 一、有價證券擔保貸付
 - 一、商會證券擔保貸付
 - 一、同會庫證券擔保貸付
 - 一、養蠶組合(ヘ)ノ貸付
 - 一、肥料購入組合(ヘ)ノ貸付
 - 一、納税組合(ヘ)ノ貸付
 - 一、貯金組合(ヘ)ノ貸付
 - 一、其他各種産業組合公共團體
 - 一、ヘノ貸付
 - 一、荷付爲替手形商業手形ノ割
 - 一、引以上簡便低利ニ御取扱致
 - シマス

品自慢と 正直な値段

自轉車・リヤカー
フタバ商會
新川町郵便局前

軍服と紳士服調製

永年東京陸軍砲工學校の御用を
承り居りましたが今回當地出身
將校各位の御聲援を賜はり左記
へ轉居開業軍服調製に専念致し
居りますから何なりと御用命の
程御願申上げます

菊地洋服店

店主 菊地 一郎
電話(呼)二八番
本町田町五十七番地
◎裁縫師 徒弟入用

刻々と死期迫る

殊勝な妹の激勵

兄は無事に點呼を済して

死の床に涙の報告

又も皇國談

平町舊城跡居住 平郵便局事務員 山本陽太郎(三)君は昨七日の平町に執行された簡點呼に召集され點呼を受けたが同君が點呼を受けた裏面には 瀕死の愛妹が死の床から宛もすればひるまんとする兄を勵まし無事任務を果たさせ淋しくも永遠に散つた悲しくも雄々しき美談が秘められ聴く人を軍國日本の花として感激させてゐる。同君妹ヨシ子さん(三)は以前から病床にあり兄の點呼當日は合憎

病勢が昂進して危篤を醫師に宣告され たが兄の召集を病床で知つたヨシさんは「妾は何うせ助からぬ命ですから皇國のために任務を果たして下さい」と陽太郎君を勵まし妹の切なる願に心を鬼にした同君は妹を其儘點呼場に駆けつけ心に愛妹の無事を祈り乍ら點呼を受けてゐるうち妹の死をもちたられ 事情を知つた新庄執行官に 歸宅を許 されて死の床に物云はぬ妹と對面無事任を果たした報告をしたのであると

新勢力を加へて

消防陣強化

水勢試験良好

四倉濱の壯烈な演習

消防陣の擴大強化を計り新たに六千五百五十圓を投じて日本消防協會の斡旋で最新式レフ自動車ポンプ一臺を購入、合計自動車ポンプ六臺(内撤水兼用一臺)を整備した平町消防組では愈々

新購入車が到着したので昨七日水勢試験を行つた後四倉濱で壯烈な夏季演習を井上組頭以下組員總出動の下に實施したが終つて同海濱で來賓多數出席盛大な披露宴を催した

刑事協會寄附

平町才穂小路長谷川浩太郎氏は本八日平署内縣刑事協會平

チフス續出

收容患者七名

近く全町に豫防を構す

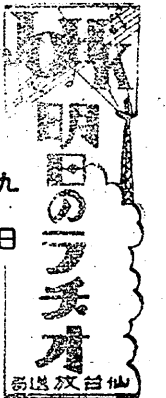
平町の腸チフスは最近の猛暑に勢を得たか俄然猛烈となり今八日迄に七名の隔離患者が續出する騒ぎに町當局は極度に狼狽し消毒に忙

邦畫が大受

地方人の映畫趣味

平署管内六ヶ所の常設館 平館、世界館、三國座、第一、二警城劇場、湯本

の七月映畫上映数は洋畫七巻に對して邦畫が七百九十七巻の斷然多數を占め地方人の日本物好みの一面を物語つて居るが入場者は大人二萬八千六百五十七人、小人五千八百四十八人、この入場料三千五百十三圓四



今晩は北の風晴 夕立模様 明日は北東の風曇晴

今晩の部

後六、〇〇 夏休み玉手箱
後六、二五 趣味講座「史蹟巡り金波煙雨の寺泊」
齋藤秀平
後七、三〇 浪花節「黒髪」
後八、一〇 舞臺劇「夜討會我狩場曙」市村羽左衛

明日の部

門他 後九、〇〇 時事解説「列強國防費の増勢」牧野輝智
後九、三〇 時報 ニューズ 明日の話題 氣象通報 番組豫告

泣く迷子

身許が判る

七日夜十二時頃平町長橋地内を泣きながら歩く女児の迷

各方部防護團の任務に關し打合

裁判一束

平町聯合防護團の協議會は昨七日午後七時から同町會議室に開き各方部防護團各班の任務に關し二時間餘に亘る大井川警中配屬將校の講演あり終つて座談會を催した

中味を抜き

登録器遺棄

平町二丁目堀藥局堀功さん方へ本八日午前二時頃忍び入り店先にあつた金銭登録器(寶溜金五圓餘在中)を盗み出し同町三丁目星藥局附近に中味抜き抜き取つて遺棄して逃走した犯人あるを午前六時頃に至つて家人が発見、届け出により平署で目下犯人嚴探中

前六、三〇 朝の松帆の浦
淡路島松帆崎より中繼
前七、四一 中等學校復習の時間「植物」高松正彦
前八、一〇 小學生あさひの時間「國史」手坂長夫
前九、三〇 子供の時間「ラヂオ世界見物」ハワイ
芝染太郎
前一〇、〇〇 日曜修行
品三御嶽教太詞殿中繼
前一一、〇四 趣味講座
岡田要
前一、一〇 講演「戦争と食糧に就て」堤康次郎
後一〇、五〇 滿洲より趣味講演「滿洲の土俗人形」

話「小倉圓平(奉天)」
後一、二〇 漫談「水五題」丸山章治
後一、五〇 都市對抗野球大會「神宮球場中繼」
後六、〇〇 合唱と獨唱 J.A.K. 唱歌隊
後七、三〇 臺灣音樂 陳印他(臺北)
後七、五〇 日曜特輯「ニュース演藝」A.R. 文藝部編輯
後八、二〇 ヴァイオリン 獨奏 高階哲夫
後八、五〇 涼みばなし「新内節の解剖」伊處孝
後一〇、四五 オリズムピツク放送「トイツ」

直ちに平區野木判事から略式罰金四十圓に處された
平職界紹介所報告
◇ 人を求める方
△豆腐賣子 三十才 迄給料歩合
△雜夫 廿才 迄給八圓

店主が店員	を連れて行	か	れる	食	堂	茶	場
正	シ	イ	酒	場	正	シ	イ
正	シ	イ	酒	場	正	シ	イ
正	シ	イ	酒	場	正	シ	イ

平・田町
レストサロン
電三五二番

△出前持 十八才 迄給五圓
◇ 職を求める方
△店員 十八才 高卒
△女中 十五才 高一修
△職工 十八才 高卒



瓦解の謎 (上) 悟道軒圓玉 (作) 尾至陽 (畫)

一九二 官軍立去る

官軍の兵士は銃を肩にして高木の別荘を去る、それを見送つた主人の伊兵衛伊七兵衛や上野の落人はこの床下にゐるか、問はれて下男が、

七「こゝにかくしておきましたが今官軍め鐵砲を射ち込んだで、それにあたつて死なれたかの、もしお武家様、まだいきてゐるさるかの」

と床下をのぞいて聲をかけた、その時それへ出て来た人物を主人が見ると年頃は二十一、二、色白の女の如きやさやかな美男子、麻の帷子に野袴をはき白木綿にて鉢巻してわらじ穿き、足に負傷してゐる刀を杖にしてゐる

伊「あなたは彰義隊のお方でございますか」

土「土井伊織と申しますが今日の戦ひに死におくれてこれまで引きあげて参りました」

伊「それはあぶないことでございます、さアこちらへお出でなされてゆる／＼御休息なさいませ、お怪我をなされたな、足から血が流れて居りますか」

土「二三ヶ所傷を負ひました」

伊「それは御困りなされたでございます、これ七兵衛衛や湯を持つて来なさい、こゝで伊織は庭に面した部屋縁に腰打ちかけ足を洗ひ鉢巻を取つて傷口に細帯をほどこし主人につれられ



男「ウム戦にまけて逃げて来に彰義隊だ、今鐵砲を打つばなした官軍がたづねてゐたはこの人かこう見たとこで女の様なよわよわしい体をしてゐるがこれでは戦は出来なからう」

伊「何を申す、この馬鹿者あつちへ行つてゐろ、エ、こゝにゐるな」

叱りつけられその人は伊織をじろじろ見ながら出て行つた、同時にこれへ入つて来たは十七八になる美しい處女

女「阿父さんこの方は上野のいくさでこゝへおちて来たお方でございますか、まア怪俄をしてお在なさるこ

て一室に通つた、その時そこへ出て来たは二十四五になる色の黒い丈の小造りな甚だ風采の上らぬ男

男「伯父さんこの人は何んだね」

伊「何んといふ物のいひやうだ、これは上野からお出でなすつたお客様だぞ」

と

どいひつゝ伊織をデツと見てゐるその時主人の伊兵衛が

伊「お静やこの方は上野で戦つてこゝまで落ちて来なすつたが大分怪俄をしてお在なさる、その手あてをせすばなるまい」

静「阿父さんお助け申してください」

伊「お助け申す爲めにおかまひ申したのだから心配するな、さて伊織さま、定めし御空腹でございます、それには怪俄をした時は食事をなさると疲れも去るとのことでございます」

といつたが直に粥をこしらへ梅干をそへて出した、伊織は食事をしてしばらく休息してゐたが、氣力も大分恢復した

土「御親切の段々お禮を申し上げますして御當家は」と問はれて

伊「日本橋の室町に店がございます、まして渡世は貿易商、こゝは私の別荘でございます、稼業柄とて横濱に参つて外國人と取引もいたします、また買入れたその品々は主に徳川様に賣り込みまして陸軍總裁の勝安房様やまた海軍副總裁の榎本和泉守様のもとにもお出入を致して居ります榎本様は今品川沖に軍艦をひきひてお出でになります先日も鐵砲二百挺に火薬を持つて参りましたあなたの上野をおちた上は榎本様のころへお出でになつて軍艦へ乗り込めば官軍は手を入れとも出来ませぬまい」

と云はれて伊織もそれでは榎本のひきゆる軍艦に逃れやうとかう決心した。

と

どいひつゝ伊織をデツと見てゐるその時主人の伊兵衛が

伊「お静やこの方は上野で戦つてこゝまで落ちて来なすつたが大分怪俄をしてお在なさる、その手あてをせすばなるまい」



美味！ 芳醇！

宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

市原醫院 平町・四町 電話一一四番

吉田眼科醫院 平町紺屋町

御日焼けの 御顔の御手に當就て

海水浴の御日焼け、残暑の御日焼け等は、御顔の「美」を一層傷つけるもので御座いますから、其の際は必ず御手當が必要で御座います。私共の化粧院は御日焼けには獨特のオゾン理容法による御手當を致しまして皆様が御満足のいく限りの御化粧に努めてをります。

海水浴の御日焼け、或は残暑の御日焼けの御手當には是非水野化粧院迄御寄立下さいませ。

昭和十一年八月

美容 水野化粧院

平 驛前

主 水野冬子

電話 六七八番

自宅 平町四軒町水野商店

電話 五二五番

九ミリ半

ポニイ 小型活動寫真機

改良された前進號

撮影機 ¥ 25.00

映寫機 ¥ 24.00

(カタログ進呈)

平二・電3

西村屋藥局カメラ部

御進物に 鯉節

貝焼 鯉節から

魚問屋

榮盛賀志

番三一二話電 目丁四平